

く書名を加能越三州地理志稿に改めたが、内容は依然景周編纂當時の姿が残つて加能の順序になつて居たのではあるまいか。勿論かの上表文は豫撰せられて居たが、もはや今公が今公でなくなつたから添へないで提出したものであらう。今の石川縣圖書館協會刊行本では、順序を外題の如く改めて居る。

サンジユウニクミ 三十人組 前田綱紀の制定したもので、藩主の御手廻りと稱し、鎗持・草履取・挾箱持などを職とした。延寶五年五組を置き、一組三十人、その中五人は小頭に補し、毎組頭一人を添へた。三十人組の身分は小者であるが、小頭は足輕であつた。

サンジユウニクミガシラ 三十人組頭 延寶五年三月十五日新たに比良左内・水越權之助・福田源右衛門三人に命ぜられ、役料知五十石を賜はり、各御貸馬を興へられて、列を御鷹小頭の上と定められた。組は五組の定であるから、頭の定員五人であり、以後連綿藩末に至つた。三十人組頭は平士の職で、後世は略して三十人頭といはれた。

サンジユウニクミチ 三十人組地 金澤郊外上笠舞に在つた非人小屋の附近で、舊藩中は三十人組と稱する小者の組地であつた。初め後の手木町附近に居たが、その地手木足輕の組地となるに及んで轉じたのである。

サンシユウハクリユウ 三洲白龍 石川郡曹洞宗大乘寺三十五代の住持。武藏の人、村山氏。觀清寺に出家し、卍山に業を受けて嗣法した。嘗て大乘寺に道衆となり、次いで永平寺に移り、又卍山に侍して源光院主となつた。享保十五年九月大乘寺に入つて開堂し、一住八年、檀越から大藏經を受けて經藏を建

立した。元文二年退き、洛西の大山に入り、寶曆十年四月八日九十三歳を以て寂した。

サンシユウホウカロク 三洲寶貨錄 ↓カハンカヘイロク 加藩貨幣錄。

サンシユウムラツケチヨウ 三洲村附帳 一冊。加能越三州村附帳ともいふ。藩内各郡の村名の上に、その村の草高・免合を書いてある。又邑長たる十村役の組分にして、毎村の戸數を書いた本もある。

サンシユウメイセキシ 三洲名跡志 三冊。安政二年藩の老臣村井氏の家士村上生府の著。加能越の神社・佛閣・古跡等を記してある。寶永誌及び能登名跡志から採萃して、増補を加へたものである。

サンシユウメイブツオウライ 三洲名物往來 編者不詳。藩政中兒童の習字手本として使用したもので、三洲の名産を列ねてある。

サンシユウモンドウシユウ 三洲問答集 加賀の人伴禮成の編輯した和算書。宮井持泰門人等の問答を輯めたもので、總計三十三件から成る。

サンシユウヨチズ 三洲輿地圖 第一に正保四年以來幕府に進達した領内の地圖は、三州八枚圖と稱し、富山・大聖寺藩領を除き、郡郷庄村界を分かち、古跡を少しく註してあるが、實測したものでない。第二に、富田景周著の三洲輿地圖三舖は古跡・古社等の註記が頗る綿密であるが、これも實測圖でない。

第三に、石黒信由の三洲分間圖及び三洲接境略圖は、天保年間藩命により、初めて測量製圖したもので、それに大小數種あるが皆同一のものである。
サンシユウリヤクキ 三洲略記 三冊。加

越能三州を郡別とし、神社・佛閣・城跡・古址等を略記したものである。

サンシユウリヨウミンゲンコウロク 三州良民言行錄 二冊。河合良温著。領内孝貞の人物の行狀を漢文にて記する。享和壬戌河合文龍の序文がある。

サンジユツ 三術 劍術・槍術・居合の三術をいふ。

サンジヨウケオウフクノキ 三條家往復之記 一冊。前田綱紀が寶永元年三條西家に傳來する古書古記録を借覽した時の往復の書簡等である。

サンジヨウニシゾウシヨサイコウシマツキ 三條西藏書再興始末記 前田綱紀が元祿十五年から享保五年に至る間に、圖書の事に關して三條西家と往復した文書の蒐集で、同家藏書の保存を謀り、その文庫を修築した次第を明らかにし得るもの。冊數四卷。侯爵前田家に藏するところである。

サンセイ 參政 ↓シツセイ 執政。

サンゼンジ 三善寺 鹿島郡土川に在つて、眞宗東派に屬する。

サンソウジ 三草紙 三冊。金澤産の俳人關更編。享和元年京菊屋太兵衛板。伊賀の土芳の芭蕉隨聞記を、白赤黒の三冊に分かちて刊行したものである。
サンダイサンジユウコウサイカイ 算題三十好再解 近藤信行の著した算書である。好とは問題のことで、或人の著に係る三十題の算法を再吟味したもの。
サンダニ 三谷 能美郡粟津郷に屬する部落。
サンダニイシ 三谷石 能美郡三谷に産す

る石材。石英粗面岩質の集合物で、淡灰白色を呈し、多數の石英及び長石の砂を混じて、粗粒狀を成してゐる。

サンダニケンカ 三谷喧嘩 ↓クロダノモ 黒田頼母。

サンダンザキマゴイチ 三段崎孫市 混見摘寫に、浪人榊原豐藏が三段崎孫市の草履取三藏を頼み、毛利庄兵衛に男色の手紙を寄せた談が載せられて居り、孫市は金澤田町に住したが、その子の時に斷絶したとある。寛政十九年の小松侍帳に三百石三段崎孫市と記するものはあらう。

サンダンダ 三反田 サンダ 能美郡山上郷に屬する部落。鄉村名義抄に、この村は昔岩内新村・火釜新村・三口新村が一所になつて、三反田と稱するに至つたものであるとある。

サンダンダキ 三段瀧 石川郡額谷領の石切谷の傍にある瀧。この所にて雨乞をなすに必ず験があると言はれた。

サンデン 散田 羽咋郡邑知院内菅原庄に屬する部落。この村に古墳がある。その附近は今拓かれて桑園となり、封土も著しく削られてゐるが、往時は圓墳であつたらしい。石槨は屢發掘せられて、今は石槨を墳上に持ち出してある。板石の組合はせ式のものであるが、全體が家型で屋根は四注であり、棟と直角に材料の飛散を防ぐ爲の千木さへ模造せられてゐる。組合はせた石の一部は紛失してゐるが、加賀・能登では石槨の保存せられたものが極めて少いから、尊重すべきものである。

サンデン 三田 鳳至郡山田郷に屬する部落。明治中に至り、山口・木住・番頭・谷内と合併して山田と改稱した。